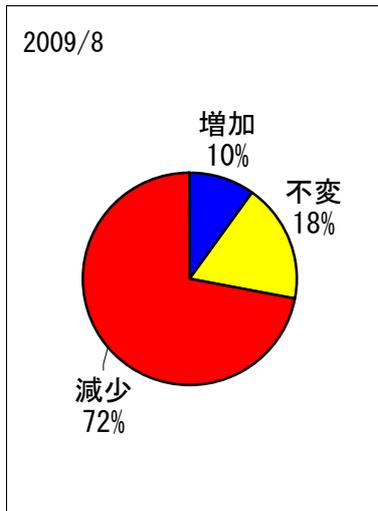
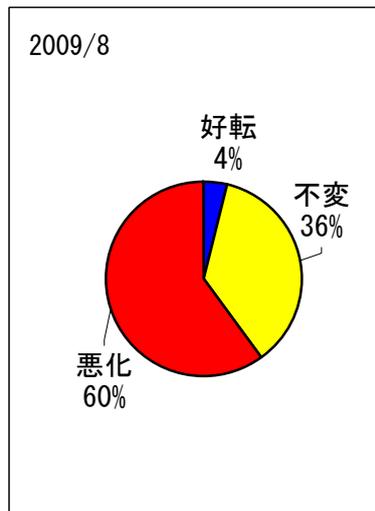


データから見た業界の動き (平成22年8月分)

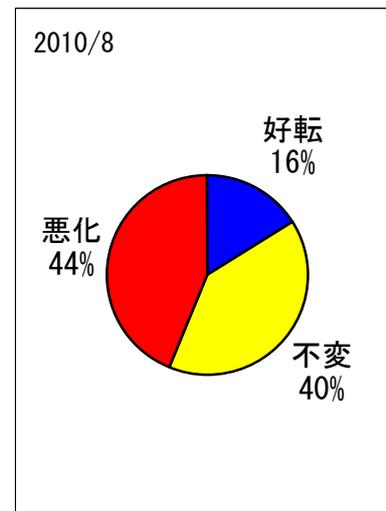
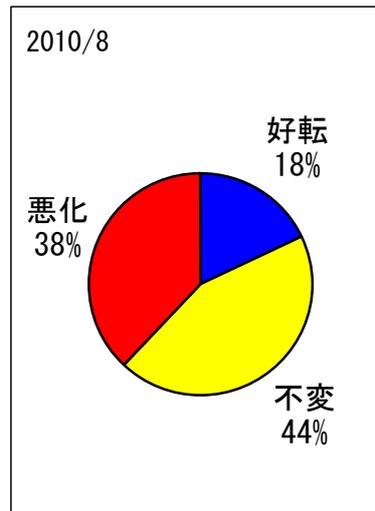
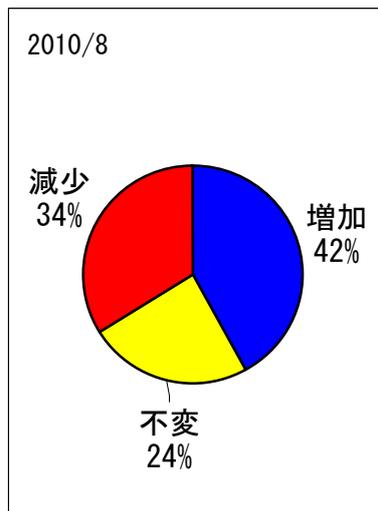
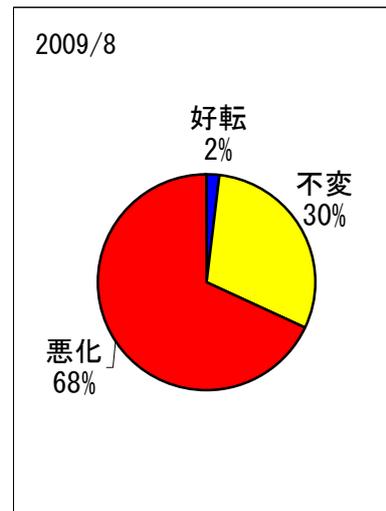
売上高 (前年同月比)



収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	09/8	10/7	10/8	09/8	10/7	10/8	2009/8	2010/7	2010/8
対前年,前月,当月									
売上高	-75	5	5	-53	0	10	-62	2	8
収益状況	-75	-10	-15	-43	-30	-23	-56	-22	-20
景況感	-80	0	-15	-57	-30	-37	-66	-18	-28

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の8月の景況では、全業種のD I値が、売上高+8（前年同月比+54）、収益状況-20（前年同月比+36）、景況感-28（前年同月比+38）と前年同月比では全項目でポイントは改善となった。業種別のD I値で見ると、製造業は、売上高+5（前年同月比+70）、収益状況は-15（前年同月比+60）、景況感は-15（前年同月比+65）と前年同月比でポイントは改善となった。これは、前年同月のD I値が売上・収益状況で-75、景況感においても-80と、全ての項目において悪化傾向にあったことから、数値上での改善幅は大きくなっている。非製造業のD I値は、売上高+10（前年同月比+43）、収益状況-23（前年同月比+20）、景況感-37（前年同月比+20）と、前年同月比においては順調に全項目で改善している。

国内経済は、個人消費の堅調維持、設備投資の持ち直しなど明るい材料もあり、景気の様子が続いているとしながらも、「このところ環境の厳しさは増している」と政府報告の表現が変更されており、先行きとして景気回復は、急激な円高や株価変動により下押しされるリスクが高まっていると報告されている。

情報連絡員による県内の8月の業況報告では、製造業、非製造業ともに、この夏の猛暑の影響を受けたとするコメントが多く特徴的であった一方で、ここまでの受注は順調であったが、今後の仕事の受注確保など先行を懸念するコメントも目立った。D I値だけでは判断できない中小企業の厳しく、不安定な現状が報告されている。

■ トピックス

8月の調査では、急激に進む円高が、県内の中小企業や業界にどのような影響を及ぼしているか（これから懸念されるか）を聞いた。主な業界の報告は次のとおり。

「輸入ワインの攻勢が増し、県産ワインの輸出等、交易の困難を予測」（食料品:ワイン酒造）、「EU向け服地の受注が大幅減。中国製品に拍車がかかる」（繊維工業）、「海外生産にシフト(移行)し、受注減」（金属製品製造）、「受注減。コスト引き下げ懸念」（一般機器製造）「メーカーが海外生産に切り替え・コストダウン要請懸念」（電気機械器具製造）（その他製造）「輸出目的製品の値引き依頼懸念」（繊維衣類卸）「輸出古紙の値下げ」（卸売：リサイクル）「インバウンド観光への影響懸念」（商店街）（宿泊業）

【製造業】

- 食料品（水産物加工）／中元商戦は低迷。婚礼食材の新規開拓等により売上は前年同月比107.9%となったが、一昨年に比べ12%程度低い水準。
- 食料品（洋菓子製造）／猛暑の影響（冷たい飲物の場合洋菓子にマッチしない）で売上は前年同月比89%と低調。夏季向け洋菓子の開発に注力。
- 食料品（製麺）／原料の小麦の値上げを危惧している。
- 繊維・同製品（織物）／猛暑の影響で夏物バーゲンの消化率は上がっているが、初秋物の動きが非常に悪い。特にネクタイは厳しい。服地に関しては国内テキスタイルでの差別化商品作りが活発化し、前年並みの引き合いに戻ってきた。袖表地は在庫調整が進み、生産が増えてきている。
- 木材・木製品製造／個人住宅の需要がない。公共物件の見積が出始めているが、単価が低く市場相場と合わない。公共の積算は一部の低価格入札を参考とせず、実態を把握して欲しい。
- 紙・紙加工品／輸入パルプの上昇もピークに達した。10月～11月引渡し分から50ドル/ト下落。それでもまだ高すぎる。
- 印刷／最近少し受注量が増えていると感じる。あくまでも昨年同月と比べてほんの少しであり、安心できるような好転ではない。
- 窯業・土石（砂利）／中部横断道建設工事、甲府駅北口開発関連工事、小・中・高校の耐震補強工事、昭和町土地区画整理事業及び大型商業施設の建設により売上が伸びた。今後についても上記工事が継続中の他に浅原橋架替え工事、河川護岸工事も発注されるため見通しは明るい。売上高が増加しても資金繰りが悪化しているのは特採料が高いことが挙げられる。
- 窯業・土石（生コン）／昨年度より出荷数量は伸びた。昭和町のイオン、リニアが本格的に出荷が始まった。その他の地区は特別伸びてはいなく、減っているところもある。9月の後半に北巨摩地区の土木工事が動き始める。
- 鉄鋼・金属(1)／各企業とも10月末までは、国内の仕事があるが、それ以降は未定。建設関係は未通したたず。
- 鉄鋼・金属(2)／前年は、8月は上昇している最中であった。今年は、前年より悪い状況。
- 鉄鋼・金属(3)／売上がわずかながら増加したが、全般的には変化無し。
- 一般機器(1)／好景気だったものがここにきて落ち着いてきた印象。
- 一般機器(2)／7月までは、仕事量は増加傾向にあったが、8月に入り減少し始めた。特に後半は円高により、急減したよう思われる。今後の見通しは全く立たない。
- 電気機器／企業により格差が大きい。
- その他(貴金属(1))／市場に購買意欲がなく、上昇機運が全く感じられない。
- その他(貴金属(2))／自力で売れる商品の開発や売り込み等の戦略もとれず、業績は下降している。

【非製造業】

- 卸売（塗料）／在庫量は減少している。交通網の整備、運輸業界の仕事量減少のため積み残し等のアクシデントの発生が少なく、間違いなく翌日には入荷する。
- 卸売（紙製品）／県外同業企業の進出による競争が激化する傾向にある。
- 卸売（ジュエリー）／小売市場は回復基調にあると感じているが、円高・株安の影響で、小売市場が再び悪化する心配あり。売上高と店舗数が国内最大の宝飾品小売チェーン店が甲府に移転してくる。業界にとって生産規模拡大の期待が持てる。
- 小売（SC）／何店かの撤退により、新規展開が可能となり、戦略的措置が図れることを前向きに捉えている。一方、景気動向については、相変わらず低迷感が漂い、特に宝飾関係に打撃を与えている。
- 小売（食肉）／例年のない猛暑で小売専門店への客足は減少し、ギフト商戦も、ここ数年右肩上がりで伸びてきた生肉の産地直送ギフトも、口蹄疫の影響とも重なり、昨対1割減となった。焼き肉商材は好調だったが、全体の売り上げを押し上げるほどの勢いはない。

- 小売（自動車）／補助金の打ち切りにより、足元の受注は急激に悪化。下期は大幅な売上減の見込み
- 小売（電機製品）／猛暑の影響で、業界全体が前年対比135%以上で推移した。山梨県（メーカー調べ）では、前年対比の売上総額が135%以上、内、量販店（14店）が139%、地域店が130%。商品別では、地デジテレビ148%、エアコン160%、冷蔵庫152%と堅調に推移した。業界全体に追い風となったエコポイントも来年3月まで延長が決まり、地デジ化に加え、過去に類を見ない猛暑のため夏期休暇返上でエアコンの納品、取付工事、各種修理に追われる日々が現在も続いている。
- 小売（事務機文具）／依然官公需の絶対量が少なく、価格競争が激しくなっている。雇用対策は出口ではなく、入口（仕事量増大による求人増）が大事。公共物件は受注機会の増加が言われるが、競争による著しい利益の減少を招いている。
- 小売（石油）／8月は原油価格が上昇したが、その上昇分は為替の円高により相殺、また記録的な猛暑により、燃費の増加、車利用の増加により販売数量が増加したが、県内SSの販売価格は据置の横ばいであった。9月の見通しは中東原油の値上げにより原油コストが上昇するが、為替レートの円高ドル安により原油コスト上昇分が無くなり、県内SSの販売価格は横ばいと予想される。
- 商店街／猛暑のためか客足減少。夏休みはレジャーに出費が向くため人通り、売上とも減少。
- 宿泊業(1)／売上高や収益は昨年を上回っているが、このまま景気が回復するとは思えない。8月は好天に恵まれたが、レジャーについては安近短が定着してきているようだ。国内の経済不安と政治不安定のため雇用も伸びず収入も増えない。
- 宿泊業(2)／高速道路の一部無料化や各企業の営業努力（値下げ等）により旅行しやすい環境となっている。またインターネットにより気軽に予約できるようになったため、今回の急激な伸びに繋がったと考えられる。これは全国的な動向だと思う。
- 宿泊業(3)／富士登山客は25万人を超えたが、宿泊には反映されていない。高速道路無料化により交通量は増えたが、地域に落ちる金はそれほど増えていないと感じる。今後も様子見が続くそう。
- 美容業／8月から猛暑の影響で美容院の入店客数が少なくなっている。今年の暑さは異常で客数が減り、県内はオーバーストアのため競争が激しい。イベントで消費を盛り上げないと全体売上の向上には結びつかない。
- 建設業（総合）／今年前半は学校の耐震工事などの公共の建築物件も出て仕事量は多かった。今年後半は大きな発注もなく、仕事量も減り、トータルで発注量は前年割れとなる見込み。
- 建設（住宅関連）／新築住宅の引き合いが少ない。住宅エコポイントの効果も限定的である。
- 建設業（型枠）／最近多くの公共工事が前倒しにより発注され、仕事量はやりきれない程出ている。しかし元請の低入札競争により工事単価はさらに下がり、赤字工事になる上、工期を守るため県内外から無駄な応援を頼む状況である。来年以降の仕事の減少も危惧され、適時・適量の公共工事の発注、低入札の禁止を強く求めたい。
- 建設業（鉄構）／学校関係等で公共工事が出ているが、ゼネコンのコスト削減要求から指値攻勢で、採算割れ物件が多い。物件量は増加傾向にあるが、不採算物件が多く受注出来ず、工場稼働率は相変わらず低い。
- 設備工事（電気工事）／住宅電気工事専門の工事店は例年並みの工事数ではあるが、単価は大きく下がっている。中型以上の工事はほとんどなく、あっても採算割れの工事であり、経営全体のことを考えると二の足を踏む場面もある。急激な縮小傾向な人口・経済にたいしての手を打たないと世界から完全に遅れてしまい打つ手がなくなりそうである。
- 設備工事（管設備）／7月の県内の景気動向調査では、7業界中4業界が改善傾向にある発表があったが、公共工事（土木建設）の回復は行政の予算が削減傾向にあり、厳しい状況が続くと思われる。
- 運輸（タクシー）／猛暑が長く続き、早朝の需要、特に高齢者の病院通いなどはあったが、夜の乗客が少なく、売上は伸びなかった。
- 運輸（バス）／他県では廃業する事業者もでていいる。とにかく宿泊を伴ったバス旅行が減っている。
- 運輸（トラック）／記録的な酷暑により、飲料水関係の物量が増加したが、お盆休み等もあり全体的には微増となった。